

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤	
科目名	自転車基礎		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	自転車の基本的な乗り方、交通ルール並びに、乗車姿勢フィッティングについて学習する。またトレイル(林道)のマナー整備について学習し的確なアドバイスが出来るようになる。				
◆概要	自転車は自動車と違い、だれでも手軽に楽しめる物ではあるが、しっかりとルールを守る方が少なく、事故が絶えない。将来自転車を職業とする上で自転車の販売・整備のみだけでは無くお客様と接する際、自転車に乗る際に必要なルール・マナーについて学習する。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	自転車に安全に乗るために必要な条件				
2	自転車の仕組み				
3	自転車の日常点検				
4	交通ルール				
5	自転車について知っておくべきこと				
6	歩行者が自転車に対して気を付けるべき事柄				
7	自動車の運転者が自転車に対して気を付けるべき事柄				
8	自転車で事故を起こした時の対処				
9	トレイル走行に必要な知識とルール				
10	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
・自転車交通安全ブック ・点検整備マニュアル					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
<b>7. その他</b>					
日本スポーツ協会公認指導者による、正しい自転車の乗り方・ルール等を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・宮川・吉澤	
科目名	自転車構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	140コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	各自転車の部品名称、構造作動について理解する。また機器の正しい取り扱いを習得し取り扱いが出来るようになる。				
◆概要	自転車は一般製品と異なり、メーカーから7分組又は未組立で出荷されることが多い。そのため店舗で組立、整備、検査されたうえでユーザーに販売販売される。したがって自転車を整備するうえで正しい機器の取り扱い、各種自転車の部品名称、役割、構造を理解する必要がある。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	安全作業の心得				
2	整備作業の目的				
3	職場の労働安全				
4	基礎整備作業(工具・機器類の取り扱い)				
5	測定作業(各種測定工具の取り扱い・正しい読み方)				
6	自転車の各パーツ部品名称				
7	自転車の各パーツ役割と構造				
8	各種部品の規格と互換性				
9	ロードバイク変速機・駆動機構・操作機構				
10	MTB変速機・駆動機構・操作機構				
11	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
整備作業機器・企画便利帳・SBM教本ロード編・SBM教本MTB編					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
<b>7. その他</b>					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、正しい機器の取り扱い、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	溝口	
科目名	デジタルコンテンツ		必修・選択(注記)	必修	前・後期
単位数	—	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	80コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	学習した知識を利用しオリジナルジャージデザイン、オリジナルステッカーとを制作や、動画編集し定期的配信できるレベルを目指す。				
◆概要	少しでも多くのユーザーを確保する為、またスポーツバイシクルを販売するうえでは、WEB、動画配信、SNSは必要不可欠な技術となっている。WEB、デザインの基礎、動画編集の方法を学習する。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	Windowsの使い方、電源、ファイルの作成、フォルダの作成、名前の変更など				
2	Wordによる文字入力、書類作成				
3	Excellによる表の作成、関数を使った表の計算、集計				
4	Photoshopの基本的な取り扱い				
5	画像の補正、加工				
6	イラストの作成				
7	文字入力、タイポグラフィ				
8	Illustratorの基本的な取り扱い				
9	図形を使ったイラスト作成				
10	文字入力、タイポグラフィ				
11	名刺作成				
12	ステッカーデータ作成				
13	ステッカー作成、切り抜き等				
14	動画編集ソフトの基本的な取り扱い				
15	動画撮影				
16	動画編集				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
・ノートパソコン・タブレットPC					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
<b>7. その他</b>					
アプリケーションの基本的な取り扱いだけでなく、現役のデザイナーやWeb・SNSを活用している広報担当者から、実践的な広告媒体の作成や活用方法を学ぶ科目である。					



学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科	担当者	今田・吉澤・宮川		
科目名	自転車組立基礎	必修・選択(注記)	必修		
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	200コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	決められたエリア内で効率良く作業し七分組を時間内に完成できるレベルを目指す。				
◆概要	スポーツバイクの組立の基本は七分組(7割)であるので、各種部品の調整、締め付け点検の手順を考え、効率よく作業できるよう車種ごと学習する。また専門店で行われている作業を技術についても学習する。				
2. 授業の計画					
1	一般車の七分組を完成させる(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
2	ロードバイクの七分組を完成させる(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
3	MTB七分組を完成させる(商品の開梱・各種部品の調整・点検・確認)				
4	梱包の仕方				
5	洗車の方法(各種部品の清掃方法・車体の正しい洗車方法)				
6	プロショップの技術(フレーム・ドライブトレイン・ブレーキ・タイヤ・ホイール)				
7	スポーツバイクメカニック取得実習 (ロードバイク編)				
8	スポーツバイクメカニック取得実習 (MTB編)				
9	まとめ				
3. 使用教材(テキスト等)					
スポーツバイクメカニック教本(ロード編・MTB編)ロードバイク・マウンテンバイク・一般車・個人工具・メンテナンススタンド					
4. 成績評価の方法					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
7. その他					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	ホイール組立基礎		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	80コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	効率よく作業しテキストなど見ずに時間内に組付けられるようになる				
◆概要	ホイールのパーツ構成や正しいホイールの組み方。組み方の種類について学習する。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	ホイールを構成するパーツを理解				
2	スポークの組み方と力学				
3	組み方の種類				
4	スポーク力学				
5	ホイールの組み方				
6	スポーク長の測り方(計算方法)				
7	仮組 32ホールリム 3クロス(6本組) イタリアン組等				
8	反復練習・時間内に組立				
9	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
スポーツバイク教法ホイール編ロードバイク・マウンテンバイク・テンションゲージ・個人工具・コンペックス・振れ取り台					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
MTBナショナルチームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTBのホイール(車輪)の正しい組付け、調整方法、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科	担当者	吉澤・今田・宮川		
科目名	測定作業	必修・選択(注記)	必修		
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	80コマ	授業場所	教室・実習棟	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	実習毎で測定機器を使用し正しい測定方法や取り扱いに慣れる。また効率よく正確に測定できる様に考えて、正確な値を読めるようになる。				
◆概要	長さ、隙間、振れ及び曲がりなど測定作業には誤差が伴うものである。この原因としては、機器特融のもの、測定者によるものなどが考えられる。この様な誤差を限りなく少なくする為には、測定機器の正しい取り扱い、並びに測定の方法や測定値の読み方を学習する必要がある。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	コンペックス取り扱いと読み方（各実習で取り扱う）				
2	ノギス取り扱いと読み方（各実習で取り扱う）				
3	マイクロメータ取り扱いと読み方（各実習で取り扱う）				
4	水平器取り扱いと読み方（各実習で取り扱う）				
5	スコヤ取り扱いと読み方（各実習で取り扱う）				
6	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
基礎整備作業・スポーツバイクメカニック(ロード・MTB・ホイール)ロードバイク・マウンテンバイク・一般車 ・マイクロメータ・ノギス・スコヤ・水平器					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
経験者による正しい工具・測定機器の取り扱いについて学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤・今田・宮川	
科目名	工作作業		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前・後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	二種類のアルミ缶ストーブ制作を通じ、指先感覚(力加減・触覚)を鍛えることで、スポーツバイクの組立、修理に役立てる。また自転車を楽しむ為のツールについて考える力を養う。				
◆概要	工作作業(アルミ缶ストーブ)を通じて指先の感覚・想像力を養う。また自分のイメージした物を形にする難しさや、イメージした形にどれだけ近づける事が出来るかを体験する。自転車に乗ること以外の楽しみ方の考察				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	自転車を楽しむ為のツールを考える。				
2	アルミ缶ストーブ制作とは				
3	内筒式制作(仕組みの説明)				
4	塗装剥ぎ工程 180番 塗料・印刷を剥ぐ				
5	アルミ缶の切り出し ケガキ線を入れ場所をカットする。同じものを2個作る				
6	アルミ缶の底を抜き切る口を成型				
7	内筒を制作し外側の缶・内側の缶を合わせる。燃焼確認				
8	毛細管を利用したストーブ制作(仕組みの説明)				
9	塗装剥ぎ工程 180番 塗料・印刷を剥ぐ				
10	アルミ缶の切り出し ケガキ線を入れ場所をカットする。				
11	アルミ缶の口を抜き切る取り成型する(上側)				
12	絞り加工・短冊加工し下側の缶に入るように加工				
13	上下缶を合わせ、燃焼確認				
14	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
アルミ缶(空き缶)・紙ヤスリ・トースカン・スコヤ・各種棒ヤスリ					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
経験者による、工具の取り扱い、切削研磨作業、などを通じ物を作る事で指先の感覚・想像力を鍛え、自転車のメンテナンスに役立てる科目である。					



学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科	担当者	吉澤・今田・宮川		
科目名	フィッティング	必修・選択(注記)	必修		
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	多くの人の体型計測をすることで、早く正確に体型を測定できるようになる。また自転車に乗車する際に必要な採寸を行い、乗車する人の体型に合わせて調整出来るようになる。
◆概要	フィッティングは自転車の性能を十分発揮させる為に理想的なポジションを見つけ出す作業。ユーザーの目標や目的を達成するための手助けとなる様対面での問診を行い、詳細な評価、精密な分析を行う。これらを通じてユーザーの希望に合うフィッティングを考える

2. 授業の計画

1	正しい身体の測り方 ・サイズを測るときの注意事項・男性の測定方法・女性の測定方法
2	乗車に必要なサイズの測り方 ・身長・体重・股下・座高・腕長・太もも・ひざ下・靴サイズ
3	正しい乗車姿勢
4	ポジション調整を行うタイミング ・購入時のままで良いのか?・違和感を感じた時にする事。
5	サドル位置を調整する方法 ・サドル位置の目安・サドル前後位置の決め方・サドルの傾き調整
6	ハンドル位置を調整する方法 ・ハンドル位置を決める握り方・ハンドルの高さの調整方法
7	クランクの長さ ・長を変えるとどうなるか・長さの確認方法・長さの選び方
8	まとめ

3. 使用教材(テキスト等)

ローラー台・コンパックス・水平器・分度器・分銅・個人工具・電卓

4. 成績評価の方法

・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%

5. 成績評価の基準

4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。

6. 履修上の注意

7. その他

JMA公認インストラクターの指導による、正しいフィッティングを学習する科目である。

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤・今田・鈴木・宮川	
科目名	外部実習（ライディング）		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	180コマ	授業場所	外部	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	各種イベント大会に多く参加し経験する事で、自ら考え自発的に行動できるようになる。また学生主導でのイベントを企画し運営出来るようになる。				
◆概要	各種イベント・大会のスタッフとして参加し、各イベント、大会運営の方法や準備を体験し、参加者目線、大会運営側目線の両方からの目線で、ユーザーが安全に楽しめる企画を考える。また自らイベントを企画し運営する。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	センチュリーライド エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
2	ツールド美ヶ原 エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
3	白馬サイクルフェスタ エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
4	シマノバイカーズ(富士見パノラマ) エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)				
5	ENS(MTBエンデューロレース) コース準備、コースマーシャル、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
6	Coupe du Japon コース準備、コースマーシャル、運営、各ブース設置準備撤収、計測、				
7	イベント企画・運営				
8	動画、写真撮影				
9	フィールド整備(実走行含む)				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b> 大会運営パンフレット・大会イベント参加企業用パンフレット・イベント参加報告書					
<b>4. 成績評価の方法</b> ・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b> 4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b> 各大会の関係者からの注意事項等の説明を聞き、当日対応できるよう事前に把握しておく。自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守る事。					
<b>7. その他</b> 実際の現場スタッフの指示の元、自ら考え行動し、参加するユーザーが求めているものは何かを考え、どう改善するかを考える科目である。					

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科		担当者	吉澤・宮川・横堀・坂本	
科目名	資格取得		必修・選択(注記)	必修	
単位数	—	授業形態	演習・実習	年次	1年次
総授業数(予定)	72コマ	授業場所	校内・外部	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	正しい機器の取り扱いや、正しい作業方法を習得し安全に正確な作業が出来るレベルを目指す。また発生してしまった事故や怪我への対象方法を学習し、不測の事態へ対処が出来るようになる。				
◆概要	種々の資格取得を通じ、労働安全の重要性や災害の原因を理解し、常に作業する際ほ本人も含め周囲の安全をどのように確保し、万が一事故や怪我が発生したい際はどの様に対処するかを学習する。				
2. 授業の計画					
1	自由研削といし特別教育 ・研削盤・自由研削用といし・取付け具等に関する知識 ・取付け方法及び試運転の方法に関する知識・関係法令・実技				
2	ガス溶接特別教育 ・ガス溶接等の業務のために使用する設備の構造及び取扱い方法に関する知識 ・ガス溶接等の業務のために使用する可燃性ガス及び酸素に関する知識 ・関係法令・実技				
3	アーク溶接特別教育 ・アーク溶接等に関する知識・アーク溶接装置に関する基礎知識 ・アーク溶接等の作業の方法に関する知識・関係法令・実技				
4	ウィルダネスファーストエイド・ベーシックコース(野外救命救急) 傷病者評価システム(PAS)・一次救命処置・重要器官系理解・重要器官系への問題・不安定なケガ(骨折など)・安定したケガ、副木(スプリント)固定ガイドライン・低体温、高体温と熱中症、溺れ、雷、感電、傷や火傷、毒、アナフィラキシー・傷病者の移動・最終試験				
3. 使用教材(テキスト等)					
ガス溶接技能者教本・アーク溶接技能者教本・グラインダ安全必携・ウィルダネスファーストエイド					
4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
6. 履修上の注意					
溶接講習は危険な作業が伴うため、機器の取り扱いや周囲への安全を確認し作業する。					
7. その他					
各業界の方による、正しい作業方法や進め方。事故事例による安全面の確保などを学習する科目である。					

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	自転車構造		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	165コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	各メーカーの操作方法やメンテナンス方法の違いについて学習しユーザー正しい取り扱いアドバイスができるようになる。				
◆概要	ロードバイク・MTB問わず各メーカーから多くの部品が販売されています。車体構造・操作機構・駆動系機構とそれぞれの機構や仕組みを理解し正しい取り扱いを学習する。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	自転車パーツ知識				
2	コンポーネント規格と互換性				
3	シマノ・スラム・カンパニョーロ・電動式変速装置				
4	ロードバイク				
5	ヘッドパーツ・ボトムブラケット・コンポーネント・フレーム交換時の注意と作業方法				
6	マウンテンバイク(MTB)				
7	ヘッドパーツ・ボトムブラケット・コンポーネント・フレーム交換時の注意と作業方法				
8	フロント・リサスペンションの正しい取り扱いと調整方法				
9	E-BIKE(電動アシストスポーツ自転車)の操作・取り扱い注意事項				
10	整備作業時の注意事項・各種設定方法・道路交通法・道路車両法				
11	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
整備作業機器・企画便利帳・SBM教本ロード編・SBM教本MTB編・メーカーサービスマニュアル(整備書)					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
<b>7. その他</b>					
チームメカニック(スポーツバイクメカニック所持)経験者による、ロードバイク・MTB・E-BIKEの正しい組付け、実践的な作業方法を学習する科目である。					

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科		担当者	溝口	
科目名	デジタルコンテンツ		必修・選択(注記)	必修	前・後期
単位数	—	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	105コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	1年次に学習した知識を利用しオリジナルジャージデザイン、オリジナルステッカーとを制作や、動画編集し定期的配信できるレベルを目指す。また学校パンフレット制作にも携わる事でデザイン性の大切を学習する。				
◆概要	WEB、動画配信、SNSは必要不可欠な技術となっている。WEB、デザインの基礎と応用、動画編集の方法を学習する。また学校のパンフレットにも携わる。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	Windowsの使い方、電源、ファイルの作成、フォルダの作成、名前の変更など				
2	Wordによる文字入力、書類作成				
3	Excellによる表の作成、関数を使った表の計算、集計				
4	Photoshop取り扱い復習と応用				
5	画像の補正、加工				
6	イラストの作成				
7	文字入力、タイポグラフィ				
8	Illustratorの取り扱い復習と応用				
9	図形を使ったイラスト作成				
10	文字入力、タイポグラフィ				
11	名刺作成				
12	ステッカーデータ作成				
13	ステッカー作成、切り抜き等				
14	動画編集ソフトの基本的な取り扱い				
15	動画撮影・動画編集				
16	パンフレット制作				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
・ノートパソコン・カメラ・タブレットPC					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。 試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
<b>7. その他</b>					
現役のデザイナーやWeb・SNSを活用している広報担当者から、実践的な広告媒体の作成や活用方法を学ぶ科目である。					



学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	ロードバイク整備		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	校内・実習棟	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	プロショップならではのコツや注意点を習得学習し、一台の車両をフレームの状態から、ヘッドパーツ、ボトムブラケット、ホイール等を特殊工具等(切削作業・圧入作業等)を使用し正確に組み上げられるようになる。				
◆概要	プロショップではフレーム単体商品からユーザーの好みの部品を組み付ける依頼を受けることもある為、フレームの下処理、多くの規格、部品の相性やそれぞれの部品の調整方法など理解が必要となる。プロショップで必要と思われる技術の基礎を学ぶ。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	プロショップのテクニックとは				
2	フレーム系				
3	傷の補修・ヘッドチューブ切削・ボトムブラケット切削・リアエンド平行度・ディレイラーハンガー等				
4	ドライブトレイン(駆動系)系				
5	各種BBの組付け方法・フロント・リアディレイラー組付け調整・ワイヤリング				
6	・各種ベアリング等の脱着組付け・コンポーネント交換等				
7	ブレーキ系				
8	インナ・アウトケーブルの交換作業・ブレーキ調整・コンポーネント交換等				
9	タイヤ系				
10	タイヤの知識・チューブレスタイヤ組み方と注意事項・クリンチャータイヤ組み方と注意事項				
11	・チューブラータイヤ組み方と注意事項・各種タイヤのパンク修理の方法と対処方法				
12	ホイール系 ホイールハブのオーバーホール(分解・清掃・給油)スポークテンション知識				
13	・ホイール振れ取り				
14	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
スポーツバイクメカニック教本(ロード編・MTB編)ロードバイク・マウンテンバイク・一般車・個人工具・メンテナンススタンド					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
元チームメカニック・整備士からプロショップで実践されているロードバイク整備技術や応用について学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科	担当者	今田・吉澤・宮川		
科目名	MTB整備	必修・選択(注記)	必修		
単位数	—	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	60コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携	—	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	プロショップならではのコツや注意点を習得学習し、一台の車両をフレームの状態から、ヘッドパーツ、ボトムブラケット、ホイール、サスペンション等を特殊工具等(切削作業・圧入作業等)を使用し正確に組み上げられるようになる。				
◆概要	プロショップではフレーム単体商品からユーザーの好みの部品を組み付ける依頼を受けることもある為、フレームの下処理、多くの規格、部品の相性やそれぞれの部品の調整方法など理解が必要となる。プロショップで必要と思われる技術の基礎を学ぶ。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	プロショップのテクニックとは				
2	フレーム系				
3	傷の補修・ヘッドチューブ切削・ボトムブラケット切削・リアエンド平行度・ディレイラーハンガー等				
4	ドライブトレイン(駆動系)系				
5	各種BBの組付け方法・フロント・リアディレイラー組付け調整・ワイヤリング				
6	・各種ベアリング等の脱着組付け・コンポーネント交換等				
7	ブレーキ系				
8	ディスクブレーキブリーディング作業・ブレーキ調整・コンポーネント交換等				
9	タイヤ系				
10	タイヤの知識・チューブレスタイヤ組み方と注意事項・クリンチャータイヤ組み方と注意事項				
11	・各種タイヤのパンク修理の方法と対処方法				
12	サスペンション系				
13	サスペンションの初期設定・メンテナンスの注意事項・オーバーホール(分解・清掃組付け)				
14	ホイール系 ホイールハブのオーバーホール(分解・清掃・給油)スポークテンション知識				
15	・ホイール振れ取り				
16	カーボンフレームの取り扱いと注意点				
17	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
スポーツバイク教法ホイール編ロードバイク・マウンテンバイク・テンションゲージ・個人工具・コンペックス・振れ取り台					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
元チームメカニック・整備士からプロショップで実践されているMTB整備技術や応用について学ぶ科目である。					



学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	診断（トラブル診断）		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	30コマ	授業場所	教室・実習棟	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ユーザーへの問診から現車確認で不具合カ所を推測し、不具合カ所を迅速に発見し原因を特定する。また修理調整を確実に出来る技術を身につける。				
◆概要	ユーザーからのメンテナンス依頼は異音・操作不良・変速不良等様々。故障診断を確実にを行うには、原因の振り分けを行う必要がある。その為、各主要部品の作動状況を確認し全体を確認し個別に診断する事が必要になる。				
<b>2. 授業の計画</b>					
1	トラブルシューティング				
2	作業にとりかかる前に				
3	原因と現象				
4	問診の方法				
5	現車での確認作業				
6	原因の推測				
7	整備とコスト(料金)				
8	故障診断の手法・効率の良い原因診断とは？・五感の活用・測定機器による診断				
9	点検修復作業				
10	まとめ				
<b>3. 使用教材(テキスト等)</b>					
スポーツバイクメカニック(ロード・MTB・ホイール・変速機・ホイール)・ロードバイク・マウンテンバイク・一般車・個人工具					
<b>4. 成績評価の方法</b>					
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
<b>5. 成績評価の基準</b>					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					
<b>6. 履修上の注意</b>					
各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。					
<b>7. その他</b>					
元チームメカニック・整備士からトラブルの正しい診断方法や、現場での応急処置・対処方法について学ぶ科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科	担当者	今田・吉澤・宮川		
科目名	特殊車両・特殊装置	必修・選択(注記)	必修		
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	75コマ	授業場所	実習棟	前・後期	前・後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要	
◆到達目標	MTB・ロードバイクとは違う機構を持つ車両の取り扱いや整備方法を学習し、幅広い車両への対応力を身につける事を目標とする。
◆概要	近年増えつつあるE-BIKE(電動アシスト自転車)の取り扱いや各部の点検調整方法、設定方法を学習する。またBMX等アクションスポーツ系車両の点検調整等も学習し、MTB・ロードバイクとの違いを理解する。

2. 授業の計画	
1	電動アシスト自転車(E-BIKE)取り扱い
2	安全上の注意・各部名称と役割・乗車前点検・駆動ユニット点検確認・バッテリーの取り扱い
3	充電方法・専用ディスプレイ操作方法と取り扱い・メンテナンス方法
4	BMX取り扱い BMXジャンル・ロードバイク・MTBとは違うポジション確認調整・シート角度・ハンドル角度・ブレーキ機構(ジャイロ)・ボトムブラケット・ホイール
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	

3. 使用教材(テキスト等)	スペシャライズドTURBO LEVO SL・HAROBIKES DOWNTOWN DLX・取り扱い説明書・SBM教本・個人工具
----------------	---

4. 成績評価の方法	・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%
------------	--

5. 成績評価の基準	4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。
------------	---

6. 履修上の注意	各種工具・教材取り扱い時による怪我には十分注意する。
-----------	----------------------------

7. その他	元チームメカニック・整備士から近年普及しつつある電動アシスト自転車や特殊な機構を備えた自転車についてメンテナンス方法や取り扱いについて学ぶ科目である。
--------	---

学科コード	CYC
-------	-----

学科 <専攻>	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・宮川	
科目名	資格取得プログラム		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	125コマ	授業場所	実習棟	前・後期	後期
企業連携	－	実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要	
◆到達目標	自転車技士・安全士資格取得に向けて分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる。
◆概要	自転車技士は自転構造上の安全性の確保等のため、自転車組立、検査及び整備に関する適切な知識及び技能を習得する。

2. 授業の計画	
1	自転車技士・安全士取得プログラム1 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルシステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等
2	
3	自転車技士・安全士取得プログラム2 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルシステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等
4	
5	自転車技士・安全士取得プログラム3 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルシステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等
6	
7	自転車技士・安全士取得プログラム4 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルシステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等
8	
9	自転車技士・安全士取得プログラム5 分解作業・ブレーキ組立作業・ホイール組立作業・ハンドルシステムの取り付け・前後ホイール組付け・チェーン組付け・変速機組付け・各種調整確認等
10	

3. 使用教材(テキスト等)
・コンペックス・水平器・分度器・分銅・個人工具・電卓・自転車技士教本・問題集

4. 成績評価の方法
・試験による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%

5. 成績評価の基準
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。

6. 履修上の注意
規定時間内(分解25分・組立80分)に組立作業が出来る事も必要となる。

7. その他
チームメカニック経験者による、分解組付け調整等の作業を反復練習し、規定時間内に組み上げられるようになる科目である。

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科		担当者	今田・吉澤・鈴木・宮川	
科目名	外部実習（ライディング）		必修・選択(注記)	必修	
単位数	－	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	210コマ	授業場所	外部	前・後期	前・後期
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	各種イベント大会に多く参加し経験する事で、自ら考え自発的に行動できるようになる。また学生主導でのイベントを企画し運営出来るようになる。特に2年次は前年の経験を活かし後輩の指導も行なう。				
◆概要	各種イベント・大会のスタッフとして参加し、各イベント、大会運営の方法や準備を体験し、参加者目線、大会運営側目線の両方からの目線で、ユーザーが安全に楽しめる企画を考える。また自らイベントを企画し運営する。				
2. 授業の計画					
1	センチュリーライド エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)1年生の指導				
2	ツールド美ヶ原 エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)1年生の指導				
3	白馬サイクルフェスタ エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)1年生の指導				
4	シマノバイカーズ(富士見パノラマ) エイド準備、運営、各ブース設置準備撤収、サポートライダー業務(2年次)1年生の指導				
5	ENS(MTBエンデューロレース) コース準備、コースマーシャル、運営、各ブース設置準備撤収、計測、1年生の指導				
6	Coupe du Japon コース準備、コースマーシャル、運営、各ブース設置準備撤収、計測、1年生の指導				
7	イベント企画・運営・1年生の指導				
8	動画、写真撮影				
9	フィールド整備(実走行含む)				
3. 使用教材(テキスト等)					
大会運営パンフレット・大会イベント参加企業用パンフレット・イベント参加報告書					
4. 成績評価の方法					
・試験等による評価 50% ・レポートによる評価 40% ・出席状況および授業に対する姿勢 10%					
5. 成績評価の基準					
4の割合によりポイントを付けて合計する。これを素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとす					
6. 履修上の注意					
各大会の関係者からの注意事項等の説明を聞き、当日対応できるよう事前に把握しておく。自転車に乗る装具は事前に用意しておく、また走行中は交通ルールを守る事。					
7. その他					
実際の現場スタッフの指示の元、自ら考え行動し、参加するユーザーが求めているものは何か、どう改善するかを考える科目である。					

学科コード	CYC
-------	-----

学科 〈専攻〉	スポーツバイシクル学科	担当者	今田・吉澤・宮川		
科目名	資格取得	必修・選択(注記)	必修		
単位数	—	授業形態	演習・実習	年次	2年次
総授業数(予定)	92コマ	授業場所	校内・外部	前・後期	前
企業連携	○	実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	保険業務の基礎を学び損害保険募集人資格(基礎分野)の取得を目指す。スポーツバイクメカニック取得を目指す。低圧電気の基礎知識を習得する。全経簿記3級の取得を目指す。				
◆概要	自転車事故などに対応するために、損害保険に関する専門的な知識や、お客様へ補償内容等分かりやすく保険を説明できる必要があります。スポーツバイクメカニック取得に向け復習と反復練習を行う。店舗運営には簿記の基礎知識は必要となる。				

2. 授業の計画					
1	損害保険取り扱い				
2	・損害保険の基礎知識・保険募集の基本ルール				
3	・保険募集の基本と心構え・損害保険の周辺知識・練習問題				
4	スポーツバイクメカニック取得				
5	・スポーツバイクメカニック取得に向け復習・組付け分解調整の反復練習・面接試験練習				
6					
7	低圧電機取り扱い業務				
8	・近年の自転車も電動化が進んでいる為、正しい電気機器の取り扱いについて学習する。				
9	・電気の基礎知識・安全作業基礎知識・関係法令・練習問題				
10	全経簿記3級				
11	・簿記の基礎・商品売買・現金預金・手形等に基礎について学習する。				
12					
13					

3. 使用教材(テキスト等)					
損害保険募集人・スポーツバイクメカニック教本(ロード・MTB・変速機・ホイール)・低電圧作業主任者教本					

4. 成績評価の方法					
試験及び出席状況、授業への取り組み姿勢を総合的に判断する。					

5. 成績評価の基準					
4による判断を素点とし上位よりS、A、B、Cを総合的に判断する。					
試験の未受験及びレポート未提出はDとする。出席数不足は補習を必要とし、満たされない場合はDとする。					

6. 履修上の注意					
低圧電機取り扱い業務は講習中に実技講習が有るので、取り扱いに十分注意し感電しないよう心掛ける事。					

7. その他					
各業界の方による、正しい作業方法の進め方。事故事例による安全面の確保について学習する。また保険業務の基礎についても学習する科目である。					